

## はじめに

情報処理センター副所長 田川光照

インターネットの普及とブロードバンド時代への突入は、商品の流通形態にも大きな影響を及ぼしている。たとえば音楽業界では、インターネットを通じた音楽配信の道とルール作りを模索しはじめた。背景には、違法MP3サイトの乱立などがあり、また音楽配信ソフト「ナップスター」が物議を醸したことも記憶に新しい。

私自身、自宅ではCATVのインターネット接続サービスを利用し、ブロードバンドの恩恵にあずかっている。私よりもっとも利用しているのは外国の放送の視聴である。なかでも韓国がおもしろい。たとえば、日本のNHKに相当するKBSは、テレビでは第一、第二、衛星第一、衛星第二を、ラジオでは第一、第二、第三、FM第一、FM第二それに国際放送をもっているが、それらをすべてインターネット上でもライブで配信しているのである。ラジオ放送については珍しいことではない。しかし、インターネット・テレビ局ではない従来のテレビ局が、放送番組をライブでそのまま配信している例はあまりないと思う。放送済み番組の一部をクリップとして置き、オンデマンドで配信しているのが普通である。KBSはこのオンデマンドでの配信も同時に行なっているが、そのやり方がまたおもしろい。ニュース番組の場合、話題ごとに分割してクリップにし、かつそのスクリプトも公開しているのである。私はこれを次のように利用している。まず興味のある話題を選び、そのスクリプトを印刷する。次に、クリップを再生してその音声を録音したうえで、それをMP3に変換してポータブルMP3プレーヤーにダウンロードする。そしてそのスクリプトとプレーヤーを持ち歩き、通勤時などに繰り返し読んだり聞いたりするのである。KBSのインターネット上での配信の仕方は、韓国語学習者にとって非常に役にたつ。

大学においても、WEBページを利用した教材・資料の配付はいろいろ考えられるであろうし、実際にされてもいる。もっとも簡単なのは、文書の教材・資料をPDF化してWEBページからダウンロードできるようにするというものであろう。しかし、マルチメディア教材・資料の配付となると敷居の高いものになる。その点で重要になるのが、だれにでも簡単に使えるツールである。科目の性格によってコンテンツの形態も変わってくるであろうが、基本的には文書（静止画を含む）と動画と音声であろう。これらを簡単に組み合わせることのできるツールがあれば、授業そのもののあり方も大きく変わる可能性がある。もちろん、コンテンツについては著作権などツールそのものとは別に考えなければならない問題もあり、音楽業界と同じように新たなルール作りも必要になるかもしれない。